

WSF Japan について

〔設立の目的〕スポーツブームといわれる昨今、多くの女性がスポーツ界で活躍している。しかし、今まで日本には、女性スポーツを統轄する団体がなかった。男性社会で生まれ、発展してきたスポーツが女性の手にも届くようになったとはいえ、スポーツの及ぼす女性への肉体的、社会的影響は男性にはない様々な問題をかかえている。

それらを女性たちが自分自身の問題として真剣に受けとめ、専門分野をのりこえ、自分たちの手で解決していったこそ、真の女性スポーツの発展があると考えられる。

そのための共通の場を持ち、プロ、アマを問わず女性スポーツの啓蒙と発展を目指すのが WSF Japan の目的である。

女性スポーツ団体としては先輩格の WSF と連携をとりながら、実際の活動は、会員の自主性に重きを置き、会員ひとりひとりが、WSF Japan の必要性を認識し、賛同者を増やしていったこそ、本格的な組織の礎となるものと思う。

したがって、当面の目標は賛同者の輪を広げることで、組織の法人化等については急がず、十分に機が熟するのを待ちたい。

〔会の運営、今後の活動〕今後の主な活動は次の通りである。

① WSF Japan News の発行（季刊）

②懇親会、会員相互を講師とする勉強会、外部の講師を招いての講演会などの開催

また、本会の運営費、および活動にかかわる経費については原則として会員の入会金と年会費でまかなうことにする。

また事務局は、当面 SPORTS 21 内（〒150 渋谷区神宮前1-14-14-403 ☎03-402-0065）に置き、通常の運営は同社のスタッフおよび、会員、賛同者の有志によるものとする。

〔WSF と WSF Japan との関係〕WSF との最初のつながりは一昨年の夏、国際女性スポーツ会議の準備で渡米した三ッ谷洋子が当初、同会議のスピーカーの1人に予定していたビリー・ジン・キングとの交渉のため WSF を訪れ、協力を求めたのがきっかけである。

米国とはその規模、性質は多少なりとも異なるとはいえ、日本においても女性がスポーツをしようとする時には、まだまだ多くの問題がある。それを少しでも解決していこうと提唱するのが WSF Japan である。

WSF について

〔歴史〕 Womens Sports Foundation（以下 WSF）は1974年、米国のトップクラス選手が集って旗揚げをした全米規模の女性スポーツ組織である。

発起人として名前を連ねたのは、テニスのビリー・ジン・キング、東京五輪で陸上競技100m 優勝のワイオミア・タイアス、ミュンヘン五輪で飛び板飛び込み優勝のミッキー・キングら、そうそうたるメンバーだった。

そして2年後の1976年、一流選手に限らず一般的な活動を強化するため、組織が再編成され、今日に至っている。

〔目的〕スポーツは、人間の精神的、肉体的発達をうながすための一つの重要な手段として発展してきた。そして現代においては、健康を増進させ、生活を楽しむためのレジャーとしての価値も大きい。WSF は、このようなスポーツを愛するすべての女性のために、あらゆる形の援助をすることを目的としている。

〔組織〕実際の活動に関しては、選手、スポーツ団体、支援組織、スポーツメディアの各代表によるアドバイザー・ボードが方針を決定する。

現在の WSF のスタッフは、会長ドナ・デ・パロナ、副会長チャールズ・M・シュルツ、事務局長エバ・S・オーシャンクロスである。

目下、個人会員が75,000人以上、協力団体も同数を数えている。

〔活動状況〕WSF は1972年に制定された平等教育法案を積極的に支持している。スポーツ界での男女平等を推し進めるため、次にあげるような活動を行っている。

①情報サービス……スポーツ医学、トレーニング、コーチング、心理学、統計学、法律など各分野の資料提供。教材の発行やフィルムの貸し出し。

②優秀選手等の表彰……毎年、女子スポーツ界に貢献した選手や指導者を表彰している。

③奨学金制度……選手、スポーツに関する分野で研究、あるいは仕事をしている女性のために特別基金や奨学金制度を設けている。

④機関誌、ニュースレターの発行……米国で唯一の女性スポーツ雑誌 "Women's Sports" を毎月発行ニュース掲載のほか、女性スポーツの動向に関するニュースレターを発行している。